

ふじあざみ

発行
国土交通省中部地方整備局
富士砂防事務所
富士宮市三園平1100
電話0544(27)5221
<http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>



(写真提供 青嶋 豊氏)

ダイヤモンド富士 (田貫湖)たぬきこ

●見ることができる時期

田貫湖の「ダイヤモンド富士」の見られる時期は、1年の間に、4月20日前後及び8月20日前後の4日間くらいです。時間は早朝の6時頃。その時期は全国から勇姿を求めて大勢の写真愛好家が集まります。その日の雲の出具合い、風の吹き具合等により、美しい「ダイヤモンド富士」に巡り合うことはなかなか容易なことではありません。

●田貫湖たぬきこ

田貫湖は広大な朝霧高原の一角にあ

り、富士山の真西に位置します。東西1km、南北0.5km、周囲4kmの湖面は富士山はもちろん、伝説を秘めた天子ヶ岳を映し、まさに神秘的な湖です。

「田貫湖」の名の由来は、「沼地（当時「狸沼」）が浅間大社の元神主であつた田貫次郎という豪族の庭園の一部であつた」、「タヌキがたくさん居た」など狸（田貫）と呼ばれるさまざまな言い伝えがあります。

●大沢崩れ

田貫湖から富士山を真正面に望むと日本三大崩れの一つ「大沢崩れ」を見



ることができます。富士山頂付近から山麓に向けて延長2,100m、最大幅500mの大規模な大沢崩れは、逆光となるためダイヤモンド富士と同時に見ることはできません。

大沢崩れの過去と未来の推定

富士山の基礎知識

富士山のほぼ真西に位置し、田貫湖からもほぼ真正面に望むことができる大沢崩れの将来を、空中写真計測による過去30年間の記録から予測しました。

大沢崩れは、富士山頂剣ヶ峰の北付近から標高2,200m付近までの延長約2,100mにわたり、最大幅約500m、最大深さ約150mをもった大沢川源頭部の巨大な崩壊地で、急な斜面に加えて日常的に崩落が発生しているため、崩れの中に立ち入ることができません。そこで、富士砂防事務所では、毎年空中写真を撮影し、その空中写真から図化機を用いて地盤の高さを細かく計測しています。この計測結果を前年度と比較することによって、一年間の崩壊の拡大量や渓床の堆積量などを把握しています。

過去30年間での計測結果

富士砂防事務所が調査した、過去30年間（昭和45年～平成12年）の崩壊地の拡大状況を示したのが図-1です。黒い部分が崩壊拡大部で、標高3,200m～3,500m付近の両岸（赤く囲った所）が最も活発に崩壊しています。この付近では30年間で崩壊面積が13,290m²拡大しています。また、大沢崩れ全体では、斜面からは約314万m³が生産され、渓床に貯まっていた土砂も含めて約466万m³の土砂が三の滝より下流に流出したと推定されます。

過去30年間の 流出土砂量

- 斜面の崩壊面積13,290m²（年平均440m²）
- 斜面からの崩壊土砂量：314万m³（年平均10.5万m³）
- 三の滝より下流への流出土砂量：466万m³（年平均15.5万m³）

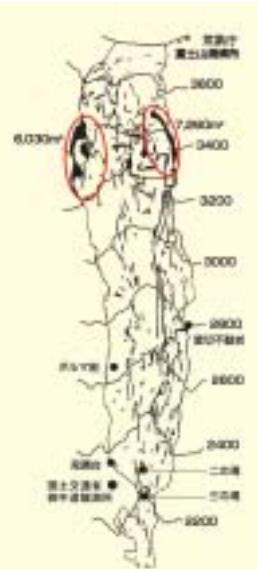
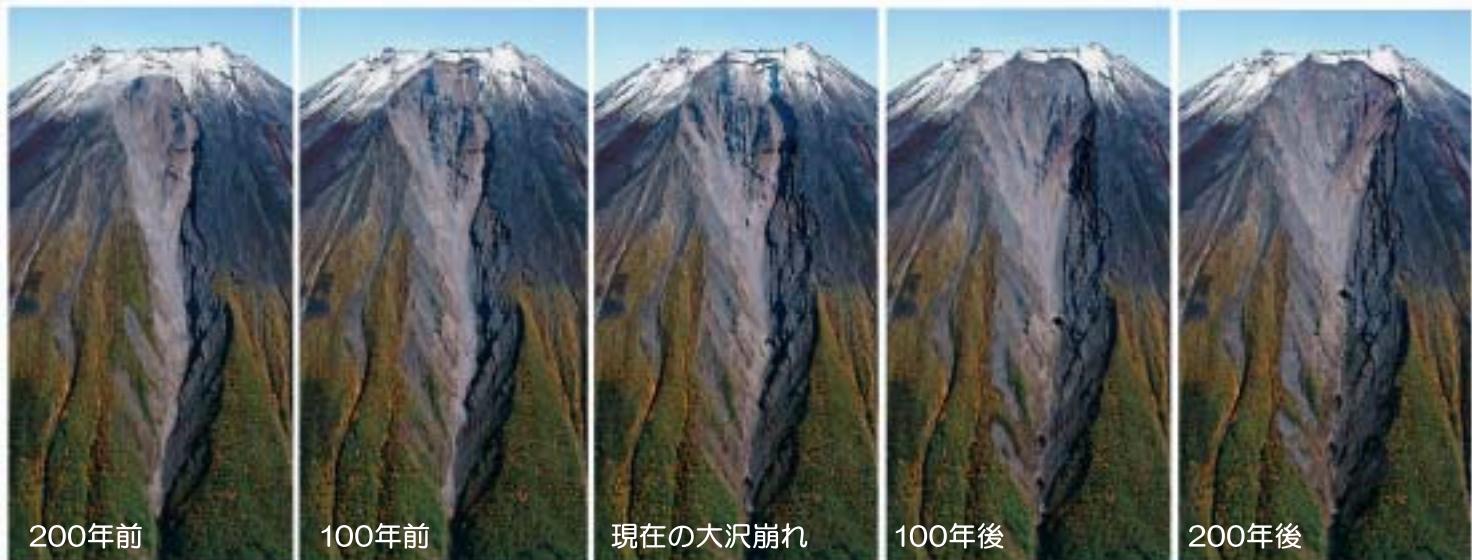


図-1 大沢源頭部の30年間での崩壊拡大部（黒塗り部）

大沢源頭部

大沢崩れの過去と未来の推定



右図の（100年前）の崩壊幅の拡大速度（最近30年間では年平均1m）を適用すると、200年前には源頭部は現在よりさらに谷幅が狭かったと考えられます。また、谷底は現在よりもかなり浅かったと思われます。

源頭部の右岸（上流から見て右側）は、ほぼ100年前の明治41年（1908年）に撮影された写真から復元したものです。また左岸は、30年間の計測による崖部の拡大速度（年平均1m）を適用しました。源頭部の谷幅は現在より100m以上も狭く、渓床にはたくさんの土砂が堆積していました。

現在の大沢崩れは、左岸側（上流から見て左側）が急傾斜で崩壊が活発です。渓床部は、下流側で溶岩や滝が連続して見られますが、上流側には岩屑が大量に堆積しています。東海地震などの大地震や火山活動が発生すると大規模な岩盤崩壊で谷底には大量の土砂が堆積すると考えられますが、右の2枚は最近の崩壊傾向が続くものとして推定しました。

100年後の姿は崩壊拡大予測断面図にもとづいて作りました。右岸の崩壊線辺部は、これ以上広がらないと思われますが、左岸は活発な岩盤崩壊で大きく拡大すると考えられます。また渓床での下方侵食も進み、小さな滝がいくつか出現するでしょう。

源頭部の左岸（上流から見て左側）はますます拡大し、大沢崩れは全体的に大きく扇形に開いた形となるでしょう。御中道付近の渓床では下方侵食と側方侵食が進んだ結果、深くて大きな峡谷が出現すると考えられます。

注記：100年後および200年後の大沢崩れは、過去30年間の計測結果に基づいて、徐々に崩壊が拡大していくことを想定したものであり、東海地震等によって一挙に大崩壊が発生することは想定していません。また、御中道付近の峡谷は拡大予測の資料がないため、現状とほとんど変わっていません。

※この予測は、富士砂防事務所が事務所発足から今日に至るまで30年間蓄積してきたデータに基づいて大沢崩れの将来を予測したものです。予測にあたっては静岡大学名誉教授・土隆一先生、東京都立大学名誉教授・町田洋先生、京都大学大学院教授・水山高久先生にアドバイスを頂きました。

富士山に暮らす

人々の暮らしを支えている公共事業

●農業用水確保のための人工湖

朝霧高原の一角に位置する田貫湖は、もともと断層運動により隆起した古富士泥流のくぼ地に水が貯まつた「狸沼」と呼ばれる天然の小さな沼地で、排水路を設けても地下水位が高く田畠にはむかないと自然荒廃地でした。芝川沿地域の用水源は、ほとんどが富士山からの湧水が集まる芝川でした。しかし大正12年9月の関東大震災の影響で、芝川の流水量が激減したことにより用水不足が生じました。そこで昭和9年に県営用水幹線改良工事として狸沼を貯水池に作りかえるた

めの調査をおこない、昭和10年から11年にかけて延長20m、高さ3m程の堤防工事を実施し、貯水面積27ヘクタール、貯水量706,000m³の人工湖が完成したのです。

その後も、戦後の食料不足に伴い各所で水田が増え、用水不足が生じたことなどから数回にわたり堤防の嵩上げ工事を実施し、貯水面積32ヘクタール、貯水量1,200,000m³のほぼ現在の姿となりました。

そして、現在田貫湖は農業用水等にくわえて、恵まれた自然環境のなかでのキャンプ、ボート遊び、ハイキング等に

ダイヤモンド富士やヘラブナ釣りで有名な田貫湖は、農業用水等を確保するための人工湖です。



さいてき こうらくち
最適な行楽地であり、ヘラブナ釣りのメッカとしても全国的に有名な富士山麓の観光スポットとなっています。

(資料提供：富士宮市役所)

富士山に寄せる想い

富士山と人との橋渡し役として……

そもそも私が環境教育という仕事にたずさわるようになったのは、生まれ育った町の森が開発により無くなると聞き、その森の保護活動に参加したことからはじまりました。その後ある自然保護団体に身を置き、北海道で勉強を始めました。故郷から遠く離れ、土地の暮らしにもなれた頃、偶然立ち寄った喫茶店で富士山の写真集を見つけました。私は生まれが山梨県であることもあり、毎日目にする富士山には「いつもそこにある大きな山」という他に特別な想いを持っていませんでした。しかし、その写真集のページをめくるごとに今まで感じたことのない望郷の念を感じました。それと同時に富士山にまつわる様々な思い出が次々と蘇ってきたのです。日々生活する風景の中にはいつも富士山があり、知らず知らずに自然の恵みだけでなく、多くの思い出をもらっていました。「私が毎日何気なく富士山を見ていた」のではなく「富士山が毎日私たちを見守ってくれていた」だと感じました。近くにいればいるほど気が付かない思いに、故郷を遠く

離れてやっと気がつくことが出来たのです。私にとって富士山を想うことは故郷を思うことと同じなのだと思います。そして、この大きく、気高く、美しい富士



田貫湖ふれあい自然 <http://www.tanuki-ko.gr.jp>
山を大切にするとともに、恩返しをしていきたいと思い、再び富士山の麓に帰ってくることになったのです。

現在、私は田貫湖ふれあい自然塾でインタークリターという仕事をしています。田貫湖ふれあい自然塾は環境省が整備した第1号の自然学校で、富士山周辺の自然情報と富士山全域での自然体験を提供しています。様々な自然体験を通じて、人間と自然との橋渡しをするのが私達の仕事です。利用者にはレジャー目的の観光客も多く、こうした人たちにも楽しみながら自然や環境保全に興味や関心を持つもらえるよう様々な工夫をしています。展示は見るだけでなく触って遊べ

るもの、体験を通して楽しみながら理解できるものを目指し、季節に応じた手作りの展示にも力を入れています。

自然塾の活動テーマは、①「直接体験により自然の面白さ、神秘、畏れなどを知る」②「科学的な視点で自然の仕組みや関係性を理解する」③「自分が自然と密接な関係の上に生きていることに気付く」の3つです。「自然とのふれあい」を通じて「人間と自然がいかに折り合いをつけて生きていくのか」という問題を自分のこととしてとらえ、暮らしの中で実践していくための土壤を作る事が重要な役割であると考えています。

私達の活動が実を結び、多くの人たちが自然とのふれあいについて正しい知識と経験を得られるようになることで、富士山の環境、日本の環境、地球の環境がいつまでも保たれていくのだと思います。かつて私が心の風景を思い出し、自然に対する恩返しをしていくきっかけを富士山からもらったように、訪れる多くの人々が自然観を取り戻すきっかけを提供できるよう、富士山が見守るここ田貫湖で恩返しを続けていきます。

■プロフィール

岩崎 仁氏
(いわさき ひとし)

田貫湖ふれあい自然塾
主任インタークリター
自分たちが暮らす身近な環境をテーマに自然と人との間の橋渡しをしています。



お知らせ

第2回 富士山土砂災害対策連絡会

7月15日、(社)全国治水砂防協会主催の「第2回富士山土砂災害対策連絡会」が田貫湖ふれい自然塾(富士宮市)にて開催されました。出席者は山梨県と静岡県の富士山麓市町村長、両県砂防担当者、東京都、富士砂防事務所。講師には荒牧重雄東京大学名誉教授(富士山ハザードマップ作成検討委員会委員長)、池谷浩氏((財)砂防・地すべり技術センター専務理事、富士山ハザードマップ作成検討委員会委員)、小山真人静岡大学教授(富士山ハザードマップ作成検討委員会委員)、杉本伸一氏(島原市災害対策課課長補佐)の火山砂防に精通された方々を迎え、富士山の侵食と噴火に起因する土砂災害をテーマに情報交換などを行いました。また、菅沼俊夫富士吉田市長からは県域を越えた市町村連携の必要性についての提案がなされ、関係機関が県域を越えた連携の必要性について確認しました。

平成15年度 優良工事事務所長表彰式

富士砂防事務所が発注し、平成15年度中に完成した工事において、特に優秀な成績をおさめた施工者に中部地方整備局長表彰、富士砂防事務所長表彰を行いました。また、優れた施工技術について富士砂防事務所長より感謝状を贈呈しました。

●中部地方整備局長表彰:(株)保坂組 平成14年度 富士山溜野沢渓流保全工工事



●富士砂防事務所長表彰:井出徳建設(株) 平成15年度 富士山大沢川渓岸工工事



●感謝状:(株)山清、永将建設(株)、(株)丸芳

富士治山治水期成同盟会からの要望

8月2日付けに富士治山治水期成同盟会より、治水関係予算の適切な確保と機動的な対応が可能な補助制度の堅持、また富士山麓における砂防と治山治水事業の推進について要望書が出されました。

お詫びと訂正

前号のふじあざみ49号におきまして、追加と訂正があります。4ページ目のお知らせ「台風6号への対応」で平成9年6月20日、大沢川扇状地への堆積土砂量260,000m³は扇状地から下流へ流出した土砂量も含みます。また、平成9年11月26日大沢扇状地への堆積土砂量172,000m³は、199,000m³の誤りです。ここにお詫びし、訂正します。

●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せください。

富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験された方の情報提供をお願いいたします。

〈連絡先〉

富士砂防事務所

担当／総務課長・釜崎、または調査課長・伊藤まで

TEL.0544-27-5387

富士山大沢川扇状地自然観察会

8月4日(水)に夏休み中の家族連れなど61名が、大沢扇状地内の約5kmの道のりを、砂防施設見学や土石流模型実験、建設機械の試乗体験、小鳥の巣箱作り・巣箱かけ、ふじあざみ植樹、富士山の自然に関するクイズ等を楽しみながら踏破しました。



富士山火山防災ウィーク

山梨県環境科学研究所主催の「富士山火山防災ウィーク」(7月24日～30日)において、富士砂防事務所はパネル展示と土石流模型実験を実施しました。



キャンプ砂防2004 in 富士山

8月18日から25日までの1週間をかけて、3人の学生がキャンプ砂防に参加しました。富士砂防事務所の仕事を実際に体験してもらう目的で、富士山の砂防施設や比地すべり調査地などの見学や実際の設計基準をもとに砂防えん堤の設計実習を行いました。



(写真左から 立命館大学 小澤君、同じく 衛藤君、三重大学 大西君)

富士山総合学習及び現地見学会結果報告

実施日	見学者等	参加人数	行事内容
7月1日(木)	富士宮市立第四中学校	7	総合学習
7月2日(金)	富士宮市立人穴小学校	14	総合学習
7月16日(金)	JICA(中国)	2	概要説明と扇状地見学
7月21日(水)	富士常葉大学学生	30	大沢崩れ見学
7月23日(金)	静岡英和女学院	1	総合学習
7月26日(月)	日本大学学生	31	概要説明と扇状地見学
7月27日(火)	富士市地域防災会	20	概要説明と扇状地見学
8月2日(月)	富士高校理数科	44	大沢崩れ見学
8月13日(金)	大阪茨木教育研究会	20	大沢崩れ見学
8月25日(水)	日本大学文理学部	17	扇状地見学

見学者の皆さんから激励のお手紙が届きました。ありがとうございました。

大沢崩れと御中道見学会参加募集

定 員／40名(1回)、全体80名(多数の場合は抽選)
対 象／原則として県内在住の方
実 施 日／平成16年10月7日(木)・14日(木)
申込締切日／平成16年9月17日(金) 必着
集 合 場 所／JR富士宮駅 8：20
参 加 費／1,000円(交通費及び保険料)

申込方法
往復ハガキかEメールにて住所・電話番号・氏名・年齢・参加希望日を記入して富士砂防事務所までお送り下さい。参加案内を返送いたします。
Eメール／info@fujisabo.go.jp

お問い合わせ先

■国土交通省富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

TEL.0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

■富士宮砂防出張所

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1

TEL.0544-54-0236

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基にしています。
今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合もあります。